角館町における観光客の動向と住民組織の役割

鹿山慎夫*・小田匡保**

I　はじめに

秋田県仙北郡角館町は，城下町の面影を残す武家屋敷の町並みで知られる。その町並みや春の桜を求めて，近年，観光客の増加が著しい。

角館町に関しては，樺細工や火災，地域的特色などについて地理学的研究がある[1)]。しかし，観光については，本格的な研究は見られない[2)]。本稿では，角館町の観光地理学的諸事象のうち，特に観光客の推移，季節性，出発地，滞在時間など観光客の動向についてまず明らかにする。そして，観光振興において住民組織が果たしてきた役割についても検討する。

はじめに，角館町の概要を，特に観光資源に重点を置いて述べておく。角館町は，横手盆地の北部に位置する人口約 15,000 人の町である。現在の角館町は，旧角館町・中川村・雲沢村・白岩村が昭和 30 年 (1955) に合併して成立したものであり，市街地部分の旧角館町の範域を，以下「角館」と呼ぶ。

角館は，元和 6 年 (1620)，秋田藩主・佐竹義宣の弟である芦名義勝によってつくられた城下町である。町の北に位置する古城山南麓に芦名氏の館を構え，そこから南に 3 本の道路を通し，現在町役場があるあたりまでを武士の居住区として「内町」と呼んだ（図 1 参照)。それより南を商人の居住区として「外町」と呼んだ。内町と外町の間には,「火除け」と呼ばれる広場があり，土塁を築いて居住区を区分した。芦名氏断絶後，佐竹氏一門の佐竹北家が所預として移ってくるが，町の構造に変化はなかった。明治以降も近代化の波を受けることなく，現在も当時の町割りがほぼそのまま残っている。昭和 51 年 (1976) には，武家屋敷地区 6.9 ha が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

また角館は，桜の名所としても名高い。町の西部を流れる桧木内川の左岸堤防には， 昭和 9 年 (1934)，現在の天皇誕生を祝ってソメイヨシノが植えられた。2 km にもわたる桜並木は，昭

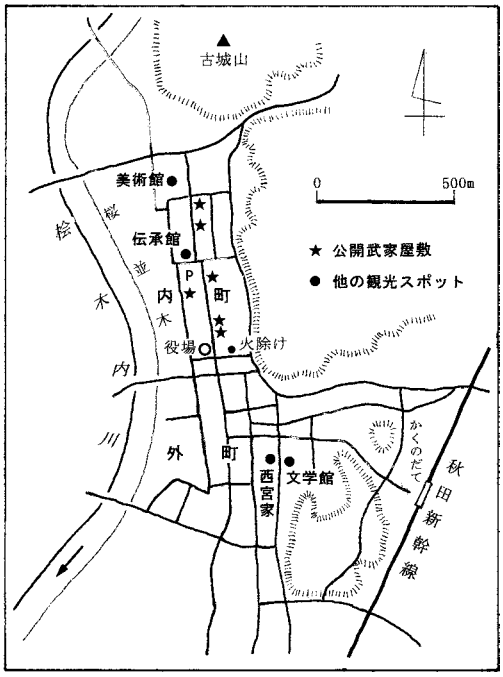

図 1　角館の概観図

* 駒澤大学文学部地理学科学生　** 駒澤大学文学部地理学教室

和 50 年 (1975) に国名勝に指定されている。一方，武家屋敷通りにも，佐竹北家 2 代目義明の妻が京都から持参したというシダレザクラがある。このうちの約 150 本が，昭和 49 年 (1974) に国天然記念物に指定されている。

II　観光客の動向

(1)　観光客数の推移

角館町における観光客の動向を検討する手始めに，角館町への観光客数の推移について見てみたい。資料として，角館町のウェブサイトにある「角館町観光客動態調査」[3] を利用する。昭

表 1　角館町の観光関係年表

年次	観光資源	観光施設・サービス	交通機関	その他
昭和 49	青柳家一般公開 石黒家一般公開 武家屋敷のシダレザクラ　国天然記念物指定			
50	桧木内川堤の桜　国名勝指定			
51	樺細工　国伝統的工芸品指定 重要伝統的建造物群保存地区選定	武家屋敷風駅舎完成		NHK 「雲のじゅうたん」放映
53	樺細工伝承館開館			
54			盛岡インター完成	
56			新秋田空港開港 角館駅に特急電車停車	
57			東北新幹線開通	
59	武家屋敷の電柱撤去			
61			東北縦貫自動車道全通	
63	平福記念美術館開館			
平成 3	秋祭り「角館祭りのやま行事」　国重要無形民俗文化財指定		秋田自動車道横手～秋田南間開通	
8		角館温泉「花葉館」入浴棟オープン かくのだて歴史案内人組合　活動開始		
9		駅前広場整備 観光情報センター「駅前蔵」オープン フォルクローロ角館オープン 人力車「桜風亭」オープン 角館温泉「花葉館」宿泊棟などオープン	秋田新幹線「こまち」開業 秋田自動車道直結	
10	西宮家オープン			
11		角館プラザホテル リニューアルオープン 田町武家屋敷ホテルオープン		
12	新潮社記念文学館開館			

資料:「角館町観光客動態調査」ほか

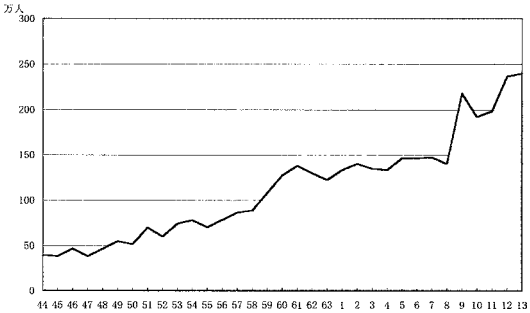

図 2　観光客数の推移
資料:「角館町観光客動態調査」

和 44 年 (1969) からの観光客数の変化をグラフ化すると，図 2 のようになる。

昭和 40 年代は観光客数が 50 万人に満たなかったが，徐々に増加し，前年に対して減少している年次があるものの，現在では約 240 万人にも達している。昭和 60 年 (1985) 頃にも増加率の伸びが見られるが，特に平成 9 年 (1997) の急増は著しい。平成 8 年 (1996) の 140 万人から 218 万人へと 1.5 倍以上の増加ぶりである。

これを，観光資源・施設や交通機関の整備（表 1）と関連づけて考察してみたい。武家屋敷の一般公開や町並み・桜に対する文化財的評価， 樺細工の伝統的工芸品指定は， 昭和 50 年 (1975) 頃には既に行なわれていた。観光客もある程度いたが，人数は徐々に伸びる程度であった。昭和 60 年 (1985) 頃の観光客数増加は，高速自動車道や鉄道などの交通機関の整備が一因していると考えられる。平成 9 年 (1997) の急増は， 明らかに， 同年 3 月 22 日の秋田新幹線「こまち」開業によるものであり，それに伴うマスコミの取材増大も影響しているようである[4)]（ただし，観光客全体に占める新幹線利用者数の割合は，それほど高くないと思われる）。

秋田新幹線開業の前後から，観光客の増加を見越して，新しい宿泊施設の建設や観光客向けのサービスが始まっている。町の玄関口である角館駅の駅前広場も，図 3 のように整備され

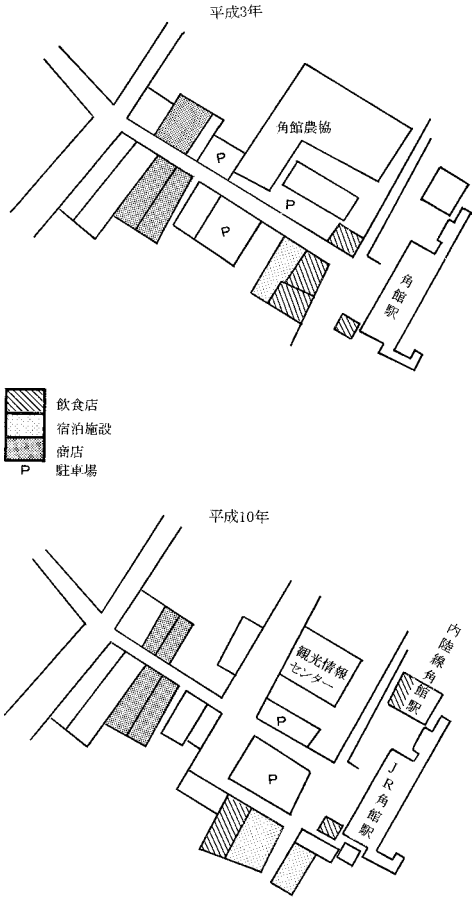

図 3　新幹線開業に伴う角館駅前の変化
資料:『住宅地図 角館町』1991 年版，1998 年版

た。宿泊施設，飲食店の数に大きな変化はないが，ロータリーがつくられ，農協の倉庫は蔵造りの建物を活用して観光情報センター「駅前蔵」となり，より観光客を意識したものになっている。

(2)　観光客数の季節性

次に，角館町における観光客数の季節性について検討する。資料は，先ほどと同じ「角館町観光客動態調査」であり，これをグラフ化すると図 4 のようになる。

図 4 を見ると， 4 月から 5 月に最大のピークがあり，次いで 9 月に多く，観光客の来訪時期に大きな偏りが見られることが分かる。 4 月下

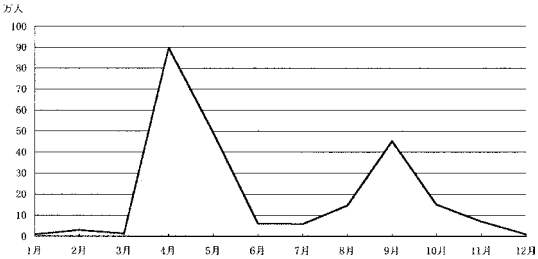

図 4　月別観光客数（平成 13 年）
資料:「角館町観光客動態調査」

旬から 5 月上旬は桜の開花時期であり，平成 12 年 (2000) の場合，4 月 15 日から 5 月 7 日に桜祭りが行なわれて， 121 万人もの観光客が訪れている[5]。これは，1 年間の観光客数の半分にあたる数である。一方，9 月には，国の重要無形民俗文化財に指定されている角館祭りのやま行事（秋祭り）が行なわれる。平成 12 年 9 月 7 日〜 9 日のやま行事には，3 日間で 31 万人の観光客が訪れている[6]。角館町の観光は， この 2 つのイベントに大きく依存していることが分かる。

ただし，最も観光客を集めるイベントである桜祭りは，桜の開花時期や天候，その年の曜日配列に観光客数を大きく左右される。たとえば，平成 11 年 (1999) は，武家屋敷のシダレザクラの開花が 4 月 21 日，散り始めが 4 月 27 日，桧木内川堤のソメイヨシノの開花が 4 月 22 日， 散り始めが 4 月 28 日であった。開花期間中，青空の晴天が一度もなく，ゴールデンウィークの前に花が散った。翌年の平成 12 年 (2000) は，シダレザクラの開花が 4 月 26 日，散り始めが 5 月 4 日， ソメイヨシノの開花が 4 月 28 日，散り始めが 5 月 6 日であった[7]。ゴールデンウィークと開花時期が重なった。桜祭りの観光客数を比べてみると，平成 11 年が 88 万人，12 年が 121 万人であり[8]，開花の時期によって観光客数に大きな差が出ることが分かる。

9 月に行なわれるやま行事にも毎年 30 万人以上の観光客が訪れるが，この期間の観光客は祭りを目的とした帰省客が多く，宿泊業や飲食店などの地元経済への影響は少ないという[9]。

(3)　観光客の出発地

角館町の観光客は，どの地域から集まっているのか。『全国観光動向』には県内客・県外客別の数字があるので，それをグラフにすると，図 5 のようになる。これによれば，秋田新幹線が開業した平成 9 年 (1997) 以降，県外客数の増加が著しい。平成 12 年 (2000) には，約 74% の観光客が県外から訪れており，県外客の割合は秋田県内の市町村で最も高い。また，県外客だけを取り上げると，角館町は秋田県で最大の集客数（179 万人）を示している[10]。このように，角館町には県外からも多くの観光客が訪れている。

観光客の出発地を，アンケート調査によって検討してみたい。資料は，角館企画集団トライアングルの「街づくりアンケート」である。角館企画集団トライアングルについては後述するが，このアンケート調査は，トライアングルが角館町内の観光施設や飲食店などに用紙を設置して，観光客に自由に記入してもらったものである。アンケート用紙の記入期間は平成 9 年 (1997) 8 月 6 日〜平成 13 年 (2001) 12 月 11 日，アンケート用紙回収数は全部で 286 人分である。質問項目は，回答者の属性（性別・年齢・住所）のほかに，自由記述で「角館の印象」，選択式で「角館町での滞在時間」，「良いと思うも

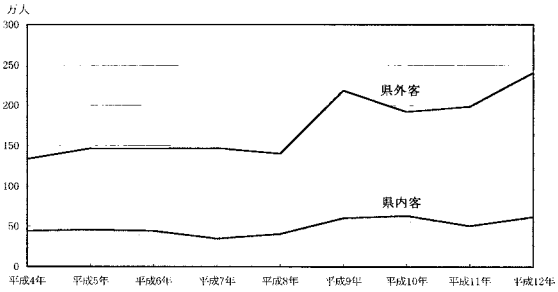

図 5　県内客・県外客別観光客数
資料:『全国観光動向』

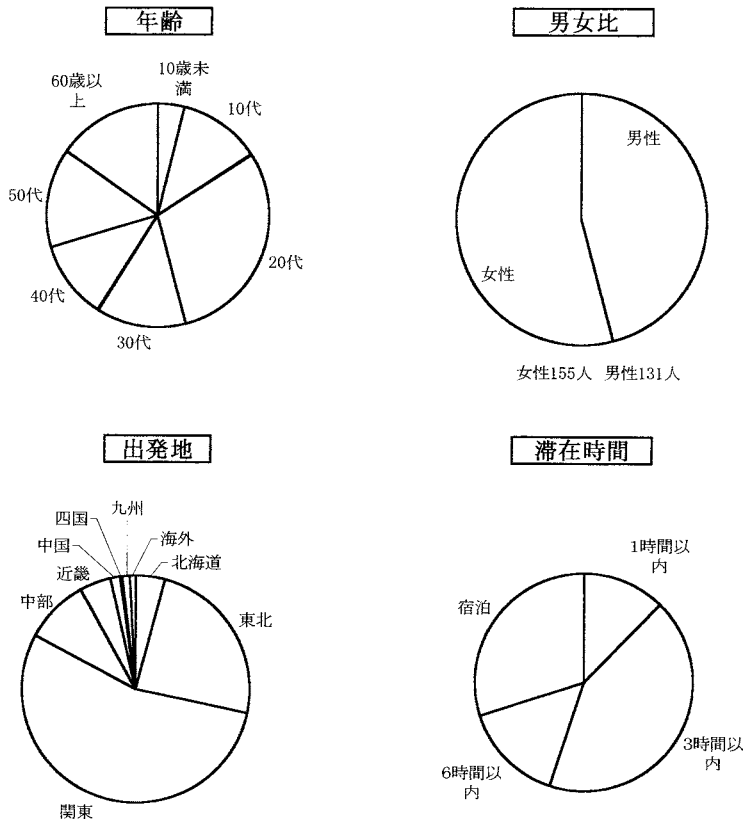

図 6　観光客へのアンケート集計結果

の」，「悪いと思うもの」である。トライアングルではアンケートを未集計であったので，筆者の方で集計し，本研究に利用させていただいた。

アンケート集計結果の概要は図 6 のとおりである。年齢別では 20 代が最も多いが，ある程度満遍なく回答を得ている。しかし，上記のようなアンケートの回収方法のため，これが観光客全体の年齢構成を反映していると考えるのは早計である。実際に町中を歩いた印象では，中高年の観光客が圧倒的に多いように感じる。男女別では若干女性の回答が多くなっている。

観光客の出発地については，関東地方が最も多くて約半数を占め，次いで東北地方が多い。都道府県別に見ると，東京，神奈川，千葉，秋田，宮城という順になった。首都圏と地元・秋田県からの観光客が多いと言える。西日本からの観光客は，東日本からの観光客に比べると非常に少ない。

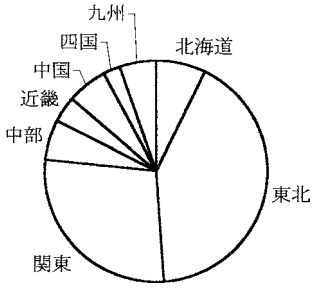

図 7　かくのだて歴史案内人組合利用者の出発地

一方，かくのだて歴史案内人組合（組合については次章で詳述）の利用者データ[11] を集計すると，図 7 のようになる。これによれば，東北地方が最も多く，次いで関東地方になる。都道府県別にみると，秋田，東京，北海道，埼玉，

岩手という順位である。東北地方，特に地元・秋田県の割合が高いのが，上述のアンケート結果と違う点である。秋田県の利用者の中には数百人の高校生の団体利用が含まれていて，これが秋田県や東北地方の割合を押し上げているが，それを除いても秋田県の第 1 位は変わらない。

以上のことから，角館町への観光客の出発地は，関東地方（特に首都圏）と東北地方（特に地元・秋田県）が多いことが分かる。ただし，どちらが多いのか正確なところは不明である。桜と武家屋敷とでは，観光客の範囲が異なることも考えられる。

(4)　観光客の宿泊率と滞在時間

次に，『全国観光動向』[12] によって，観光客の宿泊率を見てみたい。角館町における観光客の宿泊率は，平成 12 年 (2000) で 2.5% である。一方，秋田県でいちばん観光客数の多い（518 万人）秋田市は 23.2%，田沢湖高原温泉や乳頭温泉のある観光客数第 2 位（282 万人）の田沢湖町は 26.9%，八幡平や湯瀬（ゆぜ）温泉，大湯温泉のある第 3 位（262 万人）の鹿角市は 14.5% であり，第 4 位（241 万人）の角館町をおいて，第 5 位（233 万人）の大館市は 8.8% である。これら秋田県内の主要観光地と比べると，角館町は，観光客数が多い割には，宿泊率が非常に低いと言える。すなわち，角館町は通過型の観光地であると言うことができる。

このことを，観光客の滞在時間によって，あらためて検討してみたい。資料は，上述のアンケートである。図 6 のように，1 時間以内の人が 12%，1〜3 時間の人が 43%，3〜6 時間の人が 15%，宿泊が 30% である。1〜3 時間の滞在が最も多く半分近いが，1 時間以内という驚くべき短時間の滞在にとどまる観光客もいることが分かる。これらを合わせると半数以上の観光客は，3 時間以内に他の地域へと移動しているのである。なお，宿泊する人の割合が，上述の宿泊率に比べて高い結果が出ているのは，アンケートの性質上，滞在時間の長い人の方が用紙に記入しやすいためだと思われる。

滞在時間の短さを裏付けるために，旅行会社数社が企画した観光ツアーを検討してみたい。調査対象は，首都圏を出発し角館をルート内に含む平成 14 年 (2002) 秋のツアーであり，宣伝用のパンフレットを資料とした（春のツアーについては資料が得られなかった）。滞在時間が判明したのは全部で 14 コースであり，主なルートと角館での滞在時間は表 2 のとおりである。角館で宿泊するコースは 1 つもなく，滞在時間が最も短いものは 40 分，最長で 2 時間である。単純に平均すると，1 時間 20 分足らずという短さである。観光ツアーは観光スポットを要領よくまわるものであるため，一般の個人観光客がこれと同じような滞在時間であるとは言いきれないが，角館が通過型の観光地であることを示す一例であろう。

角館町での滞在時間が短い理由の 1 つとして，観光スポットが狭い範域にまとまっていることが挙げられる。図 1 を見ても分かるように，角館町の主な観光資源である武家屋敷や樺細工伝承館・平福記念美術館は，市街地の北部にかたまっており，徒歩で容易に移動できる範囲にある（近年ようやく，西宮家や新潮社記念文学館のような観光スポットが南部に立地している）。武家屋敷近くの駐車場に車を置いて，めぼしいものを徒歩で一度に見て回れるのは角館観光の長所であるが，それが同時に滞在時間の短さにもつながっているのではなかろうか。

もう 1 つ重要な問題として宿泊施設がある。上述の観光ツアーでは，角館に宿泊するコースは 1 つもなかった。これらのコースのツアー客は，角館滞在の前後に，田沢湖高原温泉（4 コース），十和田湖（4 コース）などに宿泊している（表 2 参照）。これら 2 地域と角館町の主な宿泊

表 2　観光ツアーのルートと角館での滞在時間

ルート	角館での滞在時間
東京駅（上野・大宮）～盛岡駅～**角館**～田沢湖畔～玉川ダム～**八幡平温泉郷**（泊）	40 分
東京駅（上野・大宮）～田沢湖駅～田沢湖～**角館**～玉川ダム～八幡平頂上～**湯瀬温泉**（泊）	40 分
十和田湖畔（泊）～発荷峠～八幡平頂上散策～玉川ダム～田沢湖畔～**角館**～盛岡駅	60 分
田沢湖高原温泉（泊）～抱き返り渓谷～**角館**～田沢湖畔～平泉～厳美渓～一関・仙台駅	60 分
鶯宿温泉（泊）～盛岡手作り村～小岩井農場～田沢湖畔～抱き返り渓谷～**角館**～盛岡駅	60 分
羽田空港～秋田・大館能代空港～**角館**～田沢湖～八幡平頂上～**大鰐温泉**（泊）	60 分
つなぎ温泉（泊）～田沢湖畔～抱き返り渓谷～**角館**～盛岡駅	80 分
田沢湖高原温泉（泊）～**角館**～田沢湖・辰子像～田沢湖・白浜～玉川ダム～八幡平大沼～八幡平頂上～鹿角～発荷峠～**十和田湖**（泊）	90 分
乳頭温泉郷・田沢湖高原温泉（泊）～**角館**～田沢湖・辰子像～田沢湖・白浜～玉川ダム～八幡平大沼～八幡平頂上～鹿角～発荷峠～**十和田湖**（泊）	90 分
東京駅（上野・大宮）～盛岡駅～**角館**～田沢湖畔～玉川ダム～八幡平アスピーテライン～**安比高原**または**新安比温泉**（泊）	90 分
十和田湖畔（泊）～発荷峠～玉川温泉散策～田沢湖畔～抱き返り渓谷～**角館**～秋田・青森空港～羽田空港	90 分
つなぎ温泉（泊）～抱き返り渓谷～**角館**～田沢湖・辰子姫の像～盛岡駅	90 分
鶯宿温泉（泊）～田沢湖畔～**角館**～最上川下り（古口～草薙）～**あつみ温泉**（泊）	120 分
東京駅（上野・大宮）～盛岡駅～**角館**～田沢湖畔～**田沢湖高原温泉**（泊）	120 分

資料：日本交通公社，日本旅行，近畿日本ツーリストのパンフレット

表 3　角館町と近隣観光地の主な宿泊施設と客室数

角館町

宿泊施設名	室数
角館プラザホテル	63
花葉館	27
フォルクローロ角館	26
田町武家屋敷ホテル	12
石川旅館	11
旅館やまや	9

田沢湖高原温泉

宿泊施設名	室数
駒ケ岳観光ホテル	107
プラザホテル山麓荘	98
ハイランドホテル山荘	57
国民宿舎駒草荘	41
田沢プラトーホテル	31
眺湖苑	21

十和田湖

宿泊施設名	室数
ホテル十和田荘	236
十和田湖グランドホテル	110
ホテルアズヴェール三越	100
湖畔の宿緑水閣	75
十和田プリンスホテル	66
湖畔荘	35
湖四季の宿川むら	30
山乃御振舞とわだこ賑山亭	27

資料：『マップルマガジン 50 秋田 2003–04』（昭文社）
注：上記以外にも，小規模な宿泊施設は存在する。

施設を比較してみると，表 3 のようになる。角館町で最も大きいホテルの客室数は 63 室である。しかし，それ以外は，30 室未満の比較的こじんまりとした宿泊施設である。また，観光客とビジネス客の両方に対応しているところも多い。一方，田沢湖高原温泉と十和田湖は，角館町に比べて宿泊施設の規模が大きい。

宿泊地の選択にあたっては，温泉の有無も重要である。角館町でも郊外に温泉施設「花葉館」が平成 8 年 (1996) にオープンし（宿泊棟は平成 9 年オープン），日帰り温泉の「かくのだて温泉」も数年前に町中につくられている。しかし，

隣の田沢湖町には，秘湯として人気の高い乳頭温泉や田沢湖高原温泉，水沢温泉があり，田沢湖高原温泉は，上述の観光ツアーでも角館観光の直前・直後の宿泊地としてよく使われている（表 2 参照）。

観光客の滞在時間は，地元の地域経済に大きな影響を及ぼす。宿泊はもちろんのこと，滞在時間が長い方が観光客の消費活動の機会も多くなるだけに，角館町において観光客の滞在時間を伸ばしていくことは今後の課題である。

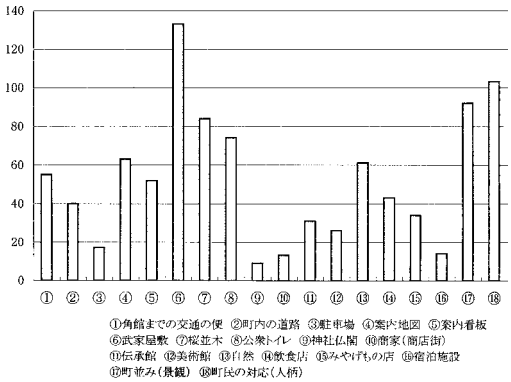

図 8　角館町の良いと思うところ

(5)　観光客の評価

角館町を訪れた観光客が角館町についてどのような印象をもったのか，アンケート結果によって見てみたい。まず角館町の良いと思う点は，図 8 のような集計結果になる（18 項目から選択，複数回答可）。最も多いのは，観光資源の代表である武家屋敷である。第 3 位の町並み（景観）も，武家屋敷を含んでいると考えていいだろう。武家屋敷は，建物だけでなく，春の桜，秋の紅葉，冬の雪景色など建物以外にも四季折々の魅力があり，多くの人を引き付けるのだと思われる。武家屋敷とならぶ観光の目玉である桜並木は，時期が限られることもあってか，順位は第 4 位である。伝承館・美術館に対する評価はあまり高くない。これは，武家屋敷に比べて訪れる人が少ないことも関係していよう。

観光資源以外の面では，町民の対応（人柄）が良い点の第 2 位に入っていることが注目される。自由記述の回答欄にも，町の人との触れ合いを旅のいちばんの思い出とする人が多い。また，公衆トイレと案内地図が第 5 位・第 6 位になっており，ソフト・ハード両面での観光客への対応が，ある程度評価されていると考えられる。

反対に，角館町の良くないと思う点については，良い点に比べて，それほど多くの回答が得られなかったが，回答の中で最も多かったのは交通の便である。新幹線を利用する人にとっては，角館は東京から乗り換えなしで来ることができるので，交通の便を良いと考える人も多い。しかし，近隣地域の普通列車を利用する人は，列車本数の少ないことに不満を感じている。

他に，飲食店・土産物店についての意見もある。武家屋敷地区に飲食店や土産物店が少ないこと，店の規模が小さく，多人数の団体客に対応できないことに対して不満が述べられている。桜の季節など観光客が多く訪れる時期には，どの店も大変混雑し，食事をするのに苦労するような状況である。

III　住民組織の役割

以上，前章では，観光客の動向についていろいろと見てきたが，本章では，角館町の観光振興において住民組織が果たしてきた役割について検討する。具体的には，角館企画集団トライアングルという住民組織に着目する。以下の記述は主に，トライアングルの代表者・石橋正則氏と，かくのだて歴史案内人組合組合長・佐藤正美氏への聞き取り調査によっている[13)]。

(1)　トライアングルの概要

トライアングル結成のきっかけは，1980 年代末のふるさと創生 1 億円事業にさかのぼる。こ

の時，町では，お金の使途や今後の町の活性化などを検討するために，角館町に住む若者主体の 60 人のメンバーからなる「住みやすいまちづくり構想策定ワーキンググループ」を設置した。その後 1 年間の活動期間で一定の成果を上げて，このワーキンググループは解散した。

しかし，参加したメンバーの中から，「このまま解散するのは惜しい」という声が多く挙がり，民間ベースのまちづくり研究会「角館企画集団トライアングル」[14] が，平成 4 年 (1992) 4 月に新たに結成された。このような組織を住民みずからがつくりあげた背景には，町に多くの観光客が訪れるものの，その多くは武家屋敷地区にとどまり，商人町である外町には観光客が流れてこないこと，町の人口が流出し続けて歯止めが掛からないことがあり，観光振興による地域活性化を目指したという。

トライアングルのメンバーは，設立当初は 20 人（男性 16 人，女性 4 人）であったが，現在は 27 人（男性 22 人，女性 5 人）である。年齢構成は， 20 歳未満が 2 人， 20 歳代 3 人， 30 歳代 7 人，40 歳代 8 人，50 歳代 7 人となっている。職業は，自営業が 8 人，会社員 9 人，公務員 1 人，学生 1 人，商工会・団体職員 8 人であり，商工業者がメンバーの中心となっている。町の活性化は自分たちの生活に大きく影響するため，積極的に活動を行なっている。

トライアングルの活動内容は，表 4 に示したとおりである。観光客が多い春と秋，閑散期の冬を中心に，四季のイベントに付加価値を付けるような企画を行なっている。具体的には，桜の季節に外町案内人や雅楽演奏会を企画したり，紅葉の季節や冬に人力車や馬そりを運行したりしている。外町案内人と人力車は，後にトライアングルの手を離れて事業化されるまでになった。ただし，トライアングルでは営利活動を第一の目的とするのではなく，観光客に楽しんでもらえる場を創り出すという視点でアイデアを出しているという。

他方，観光客向け以外にも，黄色いハンカチキャンペーン（帰郷勧誘）やニジマスのつかみ取りのように，地元住民向けの企画も行なっている。特に，夜の武家屋敷での琵琶の弾き語り，西宮家での音楽祭，美術館でのミュージカルなどのように，観光施設を住民のために活用した企画が目につく。また，わらしっこ（ちびっ子）

表 4　角館企画集団トライアングルの活動内容

• 黄色いハンカチキャンペーン	帰省時を契機に地元に帰ってほしいという願いを込めた黄色いステッカーを各世帯に貼るキャンペーン
• ニジマスのつかみ取りと夢灯り	夏に親子でふれあうニジマスのつかみ取りイベント 地域の河川公園活用をねらう
• 外町案内人	桜の時季に観光客を外町へ町案内 平成 8 年に歴史案内人組合として起業
• 人力車の運行	紅葉の季節に観光客を呼ぶための企画 平成 9 年から JR アトリスが事業化
• 馬そりの運行	閑散期の冬に人力車に代わるものとして企画
• 夜の武家屋敷の活用	武家屋敷を会場として怪談，琵琶弾き語り，雅楽の演奏，演劇を行なう
• (株)西宮家の設立	完全公設民営の地域振興の拠点
• 西宮家での音楽祭	クラシックを主体に実施 地元の住民にも好評となる
• 美術館の中庭でのミュージカル	ミネソタ州立大学とタイアップしての野外ミュージカル
• 雅楽演奏会と雅楽演奏行進	桜祭りに合わせて武家屋敷の歩行者天国で雅楽の行進 伝承館中庭で雅楽演奏と舞楽を披露
• わらしっこ（ちびっ子）火振りかまくらコンテスト	火振りかまくらに合わせて，地域の子供たちへ伝統を継承するきっかけとして開催

注：聞き取り調査による。これまでの活動内容であり，現在行なわれているものはこの一部である。

火振りかまくらコンテストは，2月の伝統行事・観光行事である火振りかまくらに合わせたものであり，トライアングルの企画には観光客と一緒に地元住民も楽しもうというものが多いように見受けられる。

(2)　かくのだて歴史案内人組合

次に，トライアングルが実際に行なってきた活動のうち，角館町の観光振興にとって重要と思われる2つの例を見てみる。

まず，かくのだて歴史案内人組合を取り上げる。歴史案内人組合は，住民がガイド「歴史案内人」となって，観光客を案内するものである。

もともとのきっかけは，桜の時季の観光客を武家屋敷地区から外町（商人町）に引き込むことをねらって，トライアングルが桜の時季の道案内を提案したことに始まる。平成7年(1995)の桜祭りの期間に，普段は公開されていない外町の旧商家の座敷や蔵などを，ボランティアガイドで案内した。それが観光客に好評であり，商人町への観光客の誘導にも成功した。そこで，この時の案内人など45人が集まり，秋田新幹線開通に伴う観光客の増加を見越して，平成8年(1996)にかくのだて歴史案内人組合を発足させた。案内コースは，内町（武家屋敷）コースと外町（商人町）コースの2つがあり，時間はともに90分である。

ガイドの数は現在35人。うち男性が27人，女性8人である。発足時のガイドは，学校の元先生や有識者などの高齢者が多かったが，一般の住民も徐々にガイドに参加するようになり，女性や若い世代のガイドが増えてきている。

利用者数は，平成8年(1996) 1630人，平成9年(1997) 3660人，平成10年(1998) 2916人，平成11年(1999) 4224人，平成12年(2000) 4079人，平成13年(2001) 5749人と，右肩上がりで増えてきている。歴史案内人組合がうまくいっている理由は，角館の町が歩きながらの案内に適しているためと考えられる。交通機関を利用しないので，料金も廉価で済む（1〜5人のグループ客で2000円）。トライアングルの提言した企画が，かくのだて歴史案内人組合の結成を促し，観光振興に貢献していると言える。

また，観光ボランティアガイドの活動は，地域の自然や歴史，文化などを，住民自身が自分の言葉で案内することから，住民による地域アイデンティティの再発見にもつながる。一般住民のガイドも増えている。歴史案内人組合は，観光振興とともに，ソフト面での地域活性化にも一役かっていると言える。

(3)　西宮家

トライアングルの関わったもう1つの活動例として，西宮家を取り上げる。西宮家は，平成10年(1998)にオープンした外町の観光スポットである。

西宮家は，江戸時代から約400年の歴史を誇る名家であり，明治・大正期には地主として栄えた。その後住む人がいなくなり，荒れ放題となっていた。そこで，民間主導で西宮家を商業・観光施設として修復し，外町へ観光客を引き込む拠点施設にしたいという案があがった。しかし，修復にかかる資金や採算性の問題で，計画は白紙になった。トライアングルは，住民を巻き込んでこの地区の活性化に関わっており，町当局を動かして，角館町が西宮家を買い取り修復すること，民間主導の第3セクターで管理運営することになった。トライアングルのメンバーを中心とした設立準備会が発足し，平成9年(1997) 11月に第3セクター「株式会社・西宮家」が設立され，平成10年(1998) 3月21日にオープンした。

西宮家では，建物を見せるだけでなく，5つの蔵と母屋を使って，民芸品・農産物の販売，レストランの経営，西宮家に伝わる調度品の展示などを行なっている。新潮社記念文学館や田

町武家屋敷とともに，外町観光の拠点として期待されるが，駐車場の狭さもあって，観光客の動線を一気に変えるには至っていないようである。いずれにせよ，ここでもトライアングルが観光振興の一翼を担っていることが指摘できる。

IV　おわりに

本稿では，秋田県仙北郡角館町を対象地域として，観光客の動向と，観光振興における住民組織の役割を明らかにした。

前者については，平成 9 年 (1997) の秋田新幹線の開業が契機となり観光客数が急増したこと， 4 月から 5 月の桜の時季にピークがあること，出発地は関東地方（特に首都圏）と東北地方（特に地元・秋田県）が多いこと，滞在時間が短く通過型の観光地であることなどが判明した。

後者については，平成 4 年 (1992) に結成された住民組織である角館企画集団トライアングルを取り上げ，観光客と地元住民の両方に向けて活動していることを紹介した。そして，観光振興に役割を果たした例として，トライアングルの提言をもとに結成されたかくのだて歴史案内人組合と，トライアングルが設立に関わった(株)西宮家の 2 つについて述べた。

現在,「町づくり」や「町おこし」が全国各地で行なわれている。その中には，行政主導ではなく，住民が自発的に組織をつくって地域の活性化を目指しているところも多い。角館町では，それが観光振興にも貢献していると言えよう。このような活動は，ハード面の観光施設整備だけでは足りないソフト面を補うばかりでなく，住民自身の意識向上にもつながると思われる。

〔付記〕

現地調査においては，角館企画集団トライアングル代表・石橋正則氏，かくのだて歴史案内人組合組合長・佐藤正美氏をはじめとして，角館町の方々に大変お世話になりました。ここに記して心からお礼申し上げます。

なお，本稿は，鹿山の平成 14 年度 (2002) 駒澤大学文学部地理学科卒業論文「観光地理学的にみた角館町の特性」に，小田が全面的に加筆したものである。

注

1) 大坂昭治「角館の樺細工」，地理 26-9, 1981，110～116 頁。今井敏信「角館町における城下町の構成と火災について」，秋田地理 20，2000，18～26 頁。四津隆一「角館町における地域性の展開」，東北学院大学東北文化研究所紀要 19，1987，61～70 頁。
2) ただし，生涯学習との関わりで観光客の行動を検討した菊地の論文がある。菊地達夫「伝統的建造物群における観光行動を通じての生涯学習のあり方―秋田県角館町の事例を中心としながら―」，生涯学習研究と実践 1, 2001, 131～139 頁。また筆者らは，授業の一環として角館町の地域調査を行なったことがあり，その報告書の中に，観光に関する 2 本のレポートを収めている。鹿山慎夫「角館町の観光」（小田匡保編『秋田県角館町調査報告』駒澤大学文学部小田研究室，2001）3～9 頁。宮岡洋子「角館の観光化活動と観光客」，同書 10～19 頁。報告書は，角館町総合情報センター・秋田県立図書館所蔵。
3) 角館町ウェブページ「角館町観光客動態調査」http://www.town.kakunodate.akita.jp/po/yakuba/kanko/kanko03.htm。2002 年 11 月 24 日アクセス。
4) 角館町がよく取り上げられる雑誌として小学館刊行の『サライ』がある。日外アソシエーツ提供のデータベース MAGAZIN-

EPLUSによれば，平成7年 (1995) に1回，平成11年 (1999) に2回，平成12年 (2000) に3回，平成14 (2002) 年に1回，関係記事が掲載されているが，内容は，町並みや桜ではなく，食べ物を中心にしている。

5) 『平成12年（度）全国観光動向』日本観光協会，2002，74頁。前掲3)。
6) 前掲5)。
7) 角館町ウェブページ「桜情報」http://www.town.kakunodate.akita.jp/po/yakuba/bunka/bunka02.htm。2002年11月24日アクセス。
8) 前掲5) 74頁。前掲3)。
9) 石橋正則氏への聞き取り調査による。
10) 前掲5) 71～72頁。
11) 利用者数は1204人。データの期間は，平成13年 (2001) 1月1日～4月26日，9月3日～12月23日である。
12) 前掲5) 71～72頁。
13) 他に，以下のウェブページを参照した。佐藤正美氏ウェブサイト「角館近辺のナビゲーター」(http://www.hana.or.jp/hana/kigata/index.html) のうち「角館企画集団トライアングル」，「かくのだて歴史案内人組合」のページ，総務省ウェブページ「平成12年度「地域づくり団体」自治大臣表彰団体の概要」http://www.soumu.go.jp/c-gyousei/2001/000319b.html，秋田県ウェブページ「県政だより：あきた新時代　平成12年度 vol. 2」http://www.pref.akita.jp/koho/pdf/info2000-02.pdf，佐々木三知夫氏ウェブサイト「ふるさと呑風便」(http://www.donpu.net/) のうち「ふるさと呑風便 2002/8月号 No. 160」，「ふるさと呑風便 2002/9月号 No. 161」のページ（以上，2003年1月31日アクセス）。
14) 「トライアングル」の名称は，良いまちづくりを目指して民間と行政が協力していくためのパイプ役を担っていくという意味で，その関係を三角形に模して名づけたものである。

Tourist Trends and the Role of a Resident Organization in Kakunodate Town, Akita Prefecture

Norio KAYAMA* and Masayasu ODA**

Kakunodate Town in Akita Prefecture, Northeastern Japan is famous for its townscape of samurai residences which has been designated an Important Preservation District for Groups of Historic Buildings. Cherry trees also attract many tourists every year. This article makes clear tourist trends and the role of a resident organization in tourism promotion. The research materials are statistical data, questionnaires and interviews with key persons of the resident organization.

The results are summarized as follows:

1. The number of tourists increased considerably in 1997 when the Akita Shinkansen was opened.
2. April and May, the time of cherry blossoms, are the peak season.
3. Visitors come mainly from Tokyo metropolitan area and the local Akita Prefecture.
4. Very few tourists stay in Kakunodate because of the poor accommodations.
5. A resident organization named Kakunodate-kikaku-shudan-toraianguru (Kakunodate Project Group Triangle) was set up in 1992. It has organized quite a few events to entertain tourists as well as local residents. The history guide which was later brought into business operation by others, and the third-sector-corporation Nishinomiya-ke which manages tourist and commercial facilities utilizing old storehouses are described in detail as two examples of tourism promotion.

* Undergraduate Student, Department of Geography, Komazawa University
** Department of Geography, Komazawa University